

こけ植物・ 地衣類群落

【夷耶馬】

夷耶馬は幾分丸みのある岩を含む凝灰岩からなり、尾根部は露岩地が広がっています。この日当たり面は、盛夏時の地中1cmで最高40℃以上にもなり、露岩面はさらに高温が予測されます。植物群落は、露岩上から地上にかけてこけ植物・地衣類群落やイワヒバ群落が広がり高温、乾燥に適応した種類で構成されています。



ウスイロキクバゴケ



ハナゴケ

尾根の側斜面を中心に広がるハナゴケ・スナゴケ群落

イワヒバ(シダ植物)は、岩角地の側斜面を中心に薄い土壌を保ちながら張り付いており、この地上もこけ植物・地衣類の共存場所です。こけ植物ではスナゴケがかたまって生育し、樹枝状の地衣類ハナゴケは柔らかい球状となって岩と調和しています。一帯の岩上やお室の岩面には、ウメノキゴケやイワカラタチゴケも見られます。



岩角地のイワヒバ群落



ケギボウシゴケ(乾いたとき)



ケギボウシゴケ(濡ったとき)

日当たりのよい尾根岩角地のこけ植物・地衣類群落

夷耶馬の露岩上には、ウスイロキクバゴケが岩面に広がり、夏の高温時は体内の水分を減少させ休眠状態で過ごしています。共存するケギボウシゴケも葉を茎に押しつけ丸くなって休眠し、雨が降るとすばやく葉を広げ生活活動をはじめます。



ウメノキゴケ

イワカラタチゴケ





ハイゴケーホソバオキナゴケ群落

岩角地の日陰側や林縁の地上のこけ植物群落

尾根の日陰面や林縁の地上にはこけ植物を主とした群落広がっています。主にハイゴケ、ホソバオキナゴケ、コムチゴケ、オオスギゴケなどで、シダ植物のヒトツバを伴うことは普通です。しかし、夷耶馬では限られた場所と言えます。



オオスギゴケ

【鷲巣岳】

鷲巣岳の尾根部の岩上こけ植物・地衣類群落

鷲巣岳は森林に覆われ、安山岩の巨石が並ぶ南部は、林内に適度の日射があり風通しもよいため岩上にクズレウチキウメノキゴケがヒジキゴケを伴い良好な群落をつくっています。



ヒジキゴケ



クズレウチキウメノキゴケ

【溪流辺】 竹田川と伊美川上部の溪流辺岩上のこけ植物群落

両河川の水際にサワゴケーランヨウハリガネゴケ群落があり、今のところ県下の他地域では確認されていません。また、各地に見られるアオハイゴケ、フジウロコゴケなど共通種もあります。

一方、伊美川源流部の鉢山跡から出る鉢内水は硫酸カルシウム（石こう）を高い濃度で含み、流路内の岩やコンクリートに白く付着しています。ここの小規模堰堤の垂直面や水しぶきのかかる岩上に、シメリイワゴケのみが白色物質を付着しながら生育しています。

サワゴケーランヨウハリガネゴケ群落

シメリイワゴケ群落



シメリイワゴケ